

平成22年8月教育委員会会議の要旨

報 告

◆山口市立小学校教諭による不適切な行為 について報告された

【概要】

- 山口市立の小学校で5年生の学級担任が、今年4月に転校してきた男子児童に係るトラブルが学級内で起こっていたために、6月4日、学級の他の児童全員に対し、当該児童に改めてもらいたい点を書かせるアンケートを実施。
- 学級担任はアンケート内容をプリントにまとめて6月7日、当該児童のみに手渡して周囲の気持ちを伝えた。
- これら一連の行為はこの担任一人の判断で行っていたということであり、その後、プリントを見た保護者が、この当該教諭及び校長に対し抗議をし、また、就学学校変更許可願を市教委に提出した結果、この児童は6月17日付で市内の別の小学校に転校し、元気に通学している。
- 市教委は、当該教諭の不適切な行為により、この当該児童及び保護者に精神的負担を与えたとの理由から、7月7日付で当該教諭に文書訓告を措置。
- 県教委としては、こうしたことが二度と行われることのないよう、市町教委と連携を図りながら教職員の資質・能力の向上や、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるような体制づくり等について、より一層取り組んでまいりたい。

議 案

議案第1号『山口県心身障害児就学指導委員会委員の任命について』

【概要】

○ 就学指導委員会について、下記委員の任命について審議され、承認された。

平成22年度山口県心身障害児就学指導委員会委員

(50音順)

	氏 名	所属・役職名等	区分	備 考
1	あか ぎ あや こ子 赤 木 綾 子	山口県国公立幼稚園連盟会長 (周南市立菊川幼稚園長)	関係教育機関	再任
2	おく もの よし こ子 奥 園 美 子	おくぞの耳鼻科クリニック院長	医師	再任
3	か と だ けい こ子 加登田 恵 子	山口県立大学社会福祉学部教授	学識経験者	再任
4	かね はら よう じ治 金 原 洋 治	かねはら小児科院長	医師	再任
5	さい とう よし まる磨 斎 藤 美 磨	山口県立大学社会福祉学部教授	学識経験者	再任
6	た はら たか ひろ浩 田 原 草 浩	たはらクリニック院長	医師	再任
7	にし かわ ひろ こ子 西 川 浩 子	山口県LD親の会「ほっぺ」顧問 (医 師)	学識経験者	再任
8	はら だ き み よ代 原 田 貴美代	(財)山口県私立幼稚園協会 副理事長	関係教育機関	新任
9	ひら お かなめ 平 尾 要	(財)山口県知的障害者福祉協会会長	学識経験者	再任
10	ふく だ しゅう ぞう三 福 田 修 三	(財)山口県肢体不自由児協会理事	学識経験者	再任
11	ふじ た く み美 藤 田 久 美	山口県立大学社会福祉学部准教授	学識経験者	再任
12	まつ おか かつ ひこ彦 松 岡 勝 彦	山口大学教育学部准教授	学識経験者	再任
13	み 三 わ けんいちろう 三 輪 研一郎	山口県立山口南総合支援学校長	関係教育機関	再任
14	よし むら けい こ子 言 村 佳 子	小郡第一総合病院 眼科医	医師	新任

議案第2号『山口県教育委員会表彰規則による表彰について（報告承認）』

下松市立花岡小学校 ^{かねみつ つとむ} 金光 勤 の死亡退職に伴い、教育長が臨時に代理して永年精勤として表彰したことを報告し、承認された。

報 告 事 項

- ◆『平成23年度（2011年度）山口県立学校職員（寄宿舍指導員）採用候補者選考試験実施要項』について報告された。

【概要】

◇職種、採用予定人員及び職務の概要

職 種	採用予定人員	職 務 の 概 要
寄宿舍指導員	4人程度	特別支援学校の寄宿舍における児童、生徒の日常生活上の世話及び生活指導に従事する。

◇受験資格

昭和56年4月2日から平成5年4月1日までに生まれた者

◇志願書類等の受付期間

平成22年9月13日（月）から9月24日（金）まで

◇試験の期日・場所

- ・期 日 平成22年10月16日（土）
- ・場 所 山口県セミナーパーク

◇試験の内容

教養試験、小論文、面接、適性検査

◇採用候補者名簿登載者の発表

- ・期 日 平成22年11月25日（金）
- ・本人に文書で通知するとともに、採用候補者名簿登載者の受験番号を同日午前9時に県庁インフォメーションプラザに掲示する。また、県教育委員会のホームページに採用候補者名簿登載者の受験番号を掲載する。

◇選考結果の情報提供

- ・選考試験の不合格者に対して選考結果を通知する。
- ・情報提供の内容は、総合成績ランク及び各試験項目の評価ランクとする。

◇試験問題及び解答例の公開

- ・公開内容 教養試験問題の解答例、小論文テーマ
- ・公開期日 平成22年10月25日（月）以降
- ・公開場所 山口県情報公開センター

協議事項

- ◆『県立高校再編整備計画（平成22年度～平成25年度計画(案)）』について協議された。

【概要】

○次期再編計画の案について、6月の教育委員会会議の協議後に、パブリックコメントの意見募集を実施し、32人の方から69件の意見をいただいた。

＜パブリックコメントの概要＞

■美祢高校の再編統合に関わる意見

- ・「美祢高校の近年の入学者数からすれば、近隣校との統合案が示されても仕方がない。」
- ・「美祢市に一つの大きな学校が誕生して、活気のある高校ができることを期待している。」など。

→計画案のとおりの方考え方を意見に対する考え方として示す。

- ・「高校の存続を単なる行政効果や経済的理由で決定するべきではない。」

→再編整備に当たっては、何よりもまず、主役である生徒に質の高い教育を提供するという視点に立つことが重要であるという考え方を示す。

- ・「数年後に改めて検討すべきである。」

→子どもたちにできるだけ早くより質の高い高校教育を提供することが大切であるという考え方を示す。

- ・「青嶺高校にバス通学ができるよう、関係機関に強く働きかけてほしい。」

→通学の便宜が図れるよう関係交通機関等への働きなどの支援を行うという考え方を示す。

- ・「美祢高校の中長期的な発展を考えて、外国人生徒を広くアジア諸国から受け入れてはどうか。」

- ・「高校がなくなると地域がますます疲弊し、地域住民の地域活性化の意欲を損なう。」

- ・「美祢高校が今まで地域で果たしてきた役割が青嶺高校でできるとは考えられない。」など。

■防府商業高校への工業科設置に関わる意見

- ・「併設することはよいと思う。」
- ・「高校卒の就職が厳しくなる中、職業科の新設は時代に逆行している。」など

■徳山北高校の分校化に関わる意見

- ・「よい方向だと思う。」
- ・「徳山北高校と鹿野分校のどちらか一つでよいと思う。」

■佐波高校の分校化に関わる意見

- ・「定員割れが続いておりやむを得ない。」

→防府商業高校への工業科設置、徳山北高校の分校化、佐波高校の分校化いずれも計画案のとおりの方考え方を示す。

■定時制課程の再編整備に関わる意見

- ・「定時制課程は地域に一つでよいと思う。」
- ・「昼間定時制を導入されてはどうか。」など

→計画案の方考え方を示したものに加えて、「生徒の多様なニーズに対応した学びの場の提供に努め、定時制課程における充実した教育の展開を図る。」という方考え方を示す。

■その他の意見

- ・「地域住民への説明会を開催するなどの対応が必要である。」
- ・「より質の高い教育が提供できているかどうか十分な検証をすべきである。」
- ・「しっかりとしたビジョンを持ち、時代を担うことのできる子どもたちを育ててほしい。」など。

<計画案の周知>

- ・計画案は県内全ての小中高等学校に配布するとともに、今回のパブリックコメントの実施についても周知を図った。
- ・パブリックコメントの実施期間中に美祢高校がある旧秋芳町、佐波高校がある旧徳地町、徳山北高校のある周南市須々万において、地域説明会を開催。説明会の案内は報道発表を行うとともに、該当地域のすべての中学生の保護者の方に案内ビラを一人一人配布して、参加を呼びかけた。
- ・さらに、県内を7地区に分け、すべての中学校の進路指導担当者に集ってもらい、再編整備計画（案）の説明をして意見を伺うとともに、また保護者の方々に対しては、県内3か所で実施された公立高等学校PTA研究協議会において、この計画案の説明を行った。

○こうしたパブリックコメントや、地域説明会などでいただいた御意見を慎重に検討した結果、計画案については、原文のまま計画として策定してまいりたい。

【 質 疑 】

質問) パブリックコメントの対象は誰か。どのような方から意見聴取したのか。

回答) 対象は県民すべてである。それ以外に地域説明会等で、その地域の中学校の保護者や、学校教育に関わる方等、様々な方々から御意見をいただいた。

質問) 生徒への説明は行ったのか。

回答) 生徒への説明については、分校化や再編統合の対象となっている3地域で保護者を通じての説明となる。また、該当校とともに、中学校や、小学校にも今回の再編整備計画を送っている。

質問) 定時制について、概案はできているのか。

回答) 定時制については、資料にあるとおり、「地域バランスに配慮した適切な配置の検討」ということで、現在はまだ具体的な案を示せる段階ではない。

【意見】

- 説明については、繰り返しお願いしたい。保護者としても不安があると思うので、いろいろな場面をお願いしたい。

意見交換

◆『平成22年度全国学力・学習状況調査結果について』

7月30日に一部概要が公表された平成22年度全国学力・学習状況調査結果について、本県の状況を分析した詳細結果を報告するとともに、意見交換を行った。

【説明のポイント】

<総論>

- 全体の結果について、平均正答数を山口県と全国とで比べると、小中学校ともに全国を上回る結果であった。
- 小学校では過去4年間で最も高い結果であり、国語A・B、算数Bで全国平均を上回り、中学校では、国語、数学、A・Bのすべての分野において全国平均上回っている。
- 「知識」に関する問題A、「活用」に関する問題Bについて結果を分析したところ、小中学校ともに「活用」に関する問題Bの正答率が、全国と比べて高い状況にあることがわかり、一方、「知識」に関する問題は、小学校算数Aでは全国よりやや低い状況にあり、課題が見られる。
- 「知識」に関する問題の詳細を分析したところ、小学校国語については、すべての領域で全国平均を上回っており、特に「読むこと」の領域に大きな伸びが見られる。これは、授業において、中心となる言葉や文に着目して要点をまとめるなどの活動を意識した授業展開がなされてきたこと、又は読書活動の充実等のためと考えている。
- 算数の「知識」に関する問題においては、改善は見られるものの、「数と計算」、「図形」の領域は全国平均を下回っており、課題ととらえている。
- 中学校では、国語、数学の「知識」に関する問題について、領域別に比較すると、昨年度からすべての領域で全国平均を上回っており、平成20年度に課題のあった「数量関係」の領域が全国と比べて高くなっていることが明らかになった。これは、比例や関数、確率といった学習において、基礎的、基本的な知識、技能の習得を目指し、しっかりとした取り組みが継続して行われてきたためと考えている。
- 小学校では、国語A・B、算数Bにおいて、正答数の多い児童の割合が全国を上回っており、昨年度の課題が改善している状況があらわれている。
- 中学校では、国語B、数学A・Bについて、全国と比べて正答数の多い児童・生徒の割合が高くなっており、一方国語Aについては、正答数の多い生徒の割合がやや低

い傾向であった。

<各教科別の状況の特徴>

- 小学校国語A：農産物まつりについて書かれた文章の問題は、全国に比べて1.3ポイント高い状況にあり、国語Bの話すこと、聞くことにかかわる問題の正答率も全国に比べて2.5ポイント高い状況にあった。この問題は、質問の内容を適切に聞き取ることができるかを問う問題であり、国語を含めさまざまな場面で、読み取ったり話したり質問したりする機会が設定されている成果であると考えている。
- 小学校算数A：新学習指導要領において新たに中学校から小学校へ移行した台形の面積の問題は、全国と比べて正答率は5.1ポイント高い状況にあった。課題が見られたのは、「数と計算領域」にかかわる問題。2リットルのジュースを3等分した際の1つ分の量を分数で表すものであったが、全国と比べると9.1ポイントも正答率が低い。平成20年度も類似問題が出題されており、この時も全国と比べて14.4ポイント低く、課題として取り上げたところ、引き続き課題であることが明らかになった。
- 中学校国語A：言語にかかわる問題。これは文脈の中で適切な敬語を選択するという問題であり、全国平均を4.1ポイント上回っていた。日常生活において敬語が適切に使用されていると考えている。
- 中学校数学A：図形にかかわる問題。円柱の体積を求めることについて、全国と比べて課題が見られる状況にある。体積を求めるには底面の円の面積に高さを掛けるところ、過去の調査で円の面積を求めることができなかつた子どもたちの状況が改善されていない。

<子どもたちの学習や生活状況>

[望ましい点]

- 授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思う児童生徒の割合が昨年度と比べて高くなっており、全国と比べても高い状況。また、授業で話し合う活動をよく行っていると思っている児童生徒の割合も、昨年度と比べて高い状況であり、全国と比べても高く、望ましい状況にある。
- 近所の人へのあいさつ、起床といった基本的な生活習慣等は、これまでと同様、全国と比べても望ましい状況にある。
- 携帯電話については、持っていない児童・生徒の割合は全国と比べて高く、通話やメールをしている児童生徒の割合は全国と比べても低い状況にある。
- 学校のきまりを守る、人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合は、これまでと同様、全国と比べても高い状況にある。

[課題]

- 感想文や説明文を書くのは難しいと思っている児童生徒の割合が全国よりも高い傾向がある。この状況を学力との相関関係で見ると、難しいと思う児童生徒の平均正答率が低い傾向があるので、難しいと思う児童生徒の割合を改善していく必要がある。
- 解答時間が足りないと感じている児童生徒の割合は高い傾向にあり、また、授業以外での学習時間、自分で計画を立てて取り組む学習、家で間違えた問題の復習をする児童生徒等の割合は、改善傾向にあるものの、全国より低い状況。いずれも今後とも努力していかなければならない点である。

- 学力調査の問題を授業で活用した学校、指導計画や取組を検討する際に調査結果等を参考にする学校の割合は、年度ごとに高くなっており、全国と比べても高い状況にある。
- 調査の結果を保護者や地域の人たちと共有した学校の割合、及び結果を踏まえた学力向上の取組を保護者や地域の人に働きかけを行った学校の割合は、全国と比べて高い状況にある。
- 放課後の補充的学習、授業研究を伴う校内研修を実施している小学校の割合は、改善しているものの、全国と比べるとまだ低い状況にある。

<総括>

- 今回の結果について、児童生徒の努力はもちろんのこと、学校の組織的な取組や家庭との連携、教育委員会の支援などこれまでの取組が定着しつつあり、全体としてその成果が見られたものであると考えている。
- 成果が見られた要因としては、本県の子どもたちの基本的な生活習慣が望ましい状況にあることに加え、授業で自分の考えを発表し話し合う活動を通して、最後まで取り組もうとする意欲が高まってきたことなどが挙げられる。また、学力調査結果や取組について、保護者や地域の人たちに子どもたちの状況を説明するなど、家庭、地域社会との連携も着実に進んできたことも要因である。
- 一方、基礎・基本の一部に課題が見られること、校内研修の一層の充実や家庭学習時間の確保と計画的な家庭学習習慣の形成等の課題も明らかになった。
- 以上の結果に基づき、今後、市町教委と協議の場をもち、課題を有する学校への支援など学校の組織的な取組の強化、教員の授業力の向上、学習内容の充実と指導方法の工夫改善、家庭・地域社会との連携の4つの重点取組事項をもとに、一層取組みを充実させ、山口県の子どもたちの学力の向上、学習状況の改善に向けてさらに成果が上がるよう支援してまいりたい。

【 質 疑 】

質問) 放課後の教室、個人的な学習を実施した学校の割合で、小学校は全国に比べて伸び悩んでいる。どのような補習の学習なのだろうか。

回答) 小学校で、放課後に子どもたちを教室に集めて補充的な学習をやらせている学校や、地域の方の協力により運営する放課後子ども教室などがある。子どもたちの放課後の学習支援により、子どもの力をどう伸ばしていくかが大きな課題であると考えている。

【 意 見 】

- 常に向上しようという心構え、モチベーションというものは非常に大事だと思うし、大いに競争したらいいと思う。決して相手の足を引っ張るということではなく、相手の存在をきちっと認めて切磋琢磨して自分を高める、これは素晴らしいことだと思う。
最近競争というと、それが格差をつくるなど変に競争を阻害するようなことがあるが、大いに競争して、より高めていこうということになればと思う。
- 経団連の大御所でボーイスカウトの日本連盟の当時総裁をなさった石坂泰三さんから、「発心あるものを若者といい、発心なきものを老人という。」との中国の諺を教えていた

だいたことが忘れられない。競争が、いつの間にか一緒に手をつないでいこうよみたいな形のものになっている現在にあって、絶えず心をおこしていく、発心していくことは大切であり、いい意味のライバルをつくることは、本当に大事なことだと思う。

- この調査は、教科それぞれに目標があり、目標達成のためにいろいろ努力をし、どの程度達成できたかということ計ることを目的として実施していると思うので、その趣旨に沿って評価をして欲しい。平均が全国の平均を上回るのはそれはよし、下回ればそこについて課題を見出せば分析し、県としての分析はもちろん、各学校あるいは各学級にまで、それぞれのところで目標としてきたものの到達度を確認し、ぜひそれを参考に次につなげていっていただくことを期待したい。
- 今回の調査で小学校、特に活用の部分が伸びてきたというのは様々なプログラムを組んで実践されてこられた成果だろうと思う。生活アンケートでも、結果に伴うように、自分で計画的に取り組むパーセンテージが増えたりとか、そういった日常生活の取り組みや意欲などが成果になって表れたのではないか。
- 私が教育委員になった頃は学力が全国平均より低いからと言われていたのに、随分ここまで頑張られたなという感じる。今回抽出をされなかった学校も含め、結果を分析し県内で比較していくこともいいのではと思う。

この前、生徒指導に課題を抱えていた学校を訪問させていただいたが、校長先生が、「うちの学校は今は学力ではなく、授業をできる態勢をつくることが私の仕事です。」とおっしゃった。すばらしい方だと思ったが、その学校を含め、バランスのとれた学校運営を一生懸命なさろうとしてる学校が県内にも何校かあると思うので、そういった学校の努力をしっかりと認めて欲しい。